

『床材カバー』施工説明書

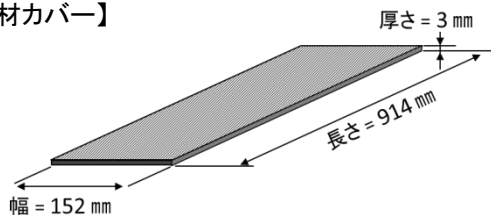
下記の施工説明をよく御覧の上、正しく施工を行ってください

■施工時の注意

- 本商品は屋内の床面専用です。既存床面（フローリング、クッションフロア）や合板の上に施工してください。
- 既存床面に水濡れ、汚れ、油分、ゴミ等の異物がある場合は除去してください。接着不良の原因になります。
- ワックス等のコート剤が塗られている場合は、除去してください。除去方法は、市販の剥離剤の使用方法に従ってください。
- 本商品に曲がりグセがついている場合は、クセを無くしてから施工してください。
- 接着剤は、「フクビボンド（別売）」を使用してください。
- カッターナイフを使用する際は、ケガに十分注意してください。
- 壁やサッシ枠等と床材カバーの間に隙間ができた場合は、推奨コーキング材「リペアカラー（別売）」を充填してください。
- 保管の際は、直射日光を避け平らな場所に平置きしてください。立て掛けると曲がりグセがつきます。
- 不要になった端材は、「廃プラスチック類」として廃棄してください。

■商品

【床材カバー】



【接着剤】



【コーキング材】

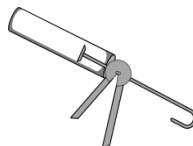


■必要工具・必要部材

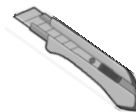
【工具】



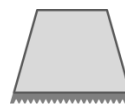
定規・メジャー



シーリングガン



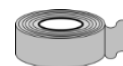
カッターナイフ



クシ目ゴテ

※現場調達

【部材】



マスキングテープ

■施工手順

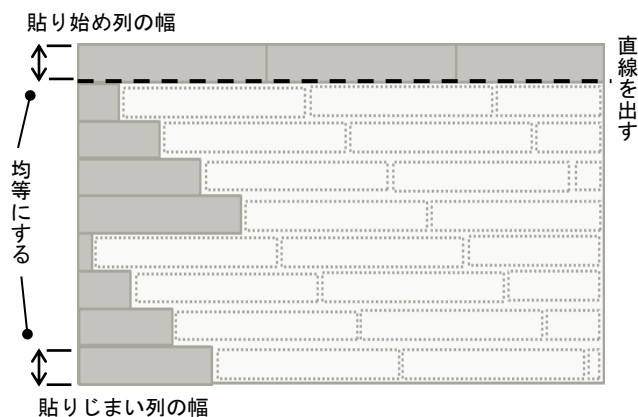
①既存床面状態の確認

●既存床面は平滑にする必要があります。平滑になっていない部分はパテ埋めしてください。フローリングの継ぎ目（目地）や溝はパテ埋めする必要はありません。

※沈み込みがある床には使用できません。

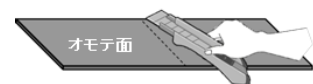
②割り付け

- 床の寸法に合わせて床材カバーを割り付けます。
- 貼り始めの列を仮置きし直線を出してから次の列に進んでください。
- 貼り始めと貼りじまいの列の幅がなるべく均等になるように割り付けると見た目のバランスが良くなります。

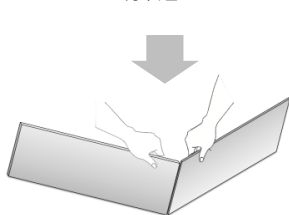


③床材カバーのカット

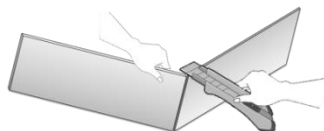
●カットの際は、オモテ面からカッターナイフで2～3回切り込みを入れ、左下図のように折り曲げるとカットしやすくなります。



切り込み



折り曲げて



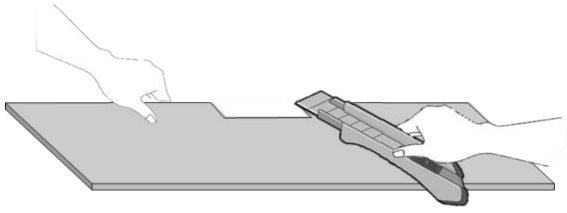
切れ目からカット

※尚、カットした残りは次の列に使用できますが、カットした辺を継ぎ目にもってこないでください。隙間ができることがあります。

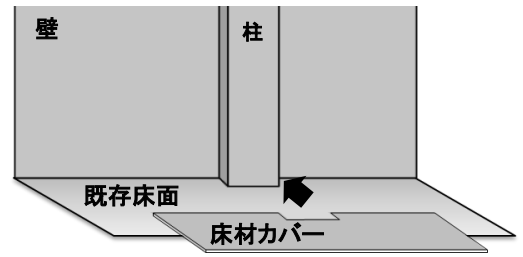
＜割り付け例＞



- 開口枠や柱などとの取り合いは、その形状に合わせて床材カバーを
カッターナイフで切り欠きます。



例) 真壁の柱



床材カバーを出っ張り部分の形状に合わせる

④接着剤の塗布、床材カバーの貼り付け

- 既存床面にクシ目ゴテを使って接着剤を均一に塗布します。
※均一にしないと、床材の繋ぎ目から接着剤がはみ出たり、
床材が浮き上がります。

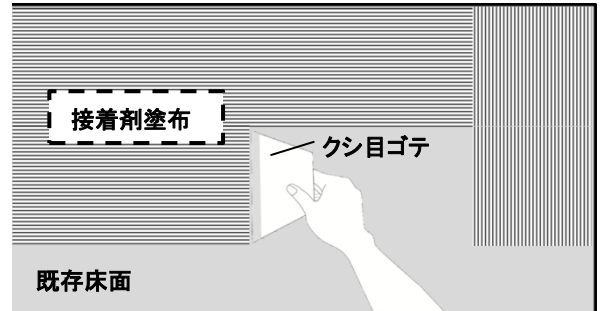
(塗布量 目安)

・フクビボンド1本(333ml)あたり約 1.4 m²分(床材カバー約 10 枚分)

※接着作業をする際は換気を十分に行ってください。

※室温を 5℃以上にして施工を行ってください。室温が 5℃より低いと
接着剤の硬化が著しく遅くなります。

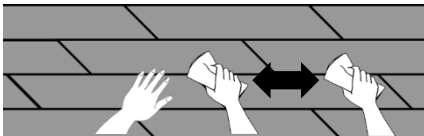
※貼り付け可能時間は接着剤塗布後 20 分以内です(室温 23℃時)。



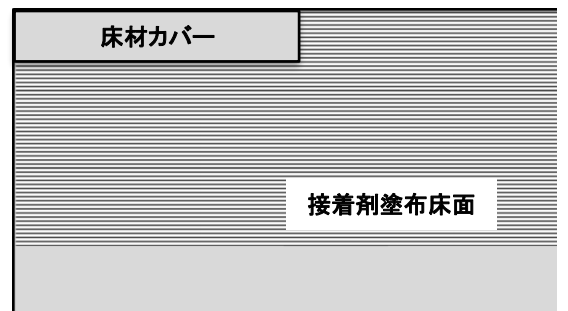
クシ目ゴテを使って既存床面に接着剤を塗布する

- 床材カバーを床面の隅から順に、継ぎ目を合わせて隙間なく貼り付
けます。
※継ぎ目から接着剤がはみ出た場合は、すぐに布などで拭き取ります。

- 床材カバー全面を乾いたタオル等で均一に押しつけ、しっかり圧着し
ます。



床の隅



- 貼り終えたら、床材カバーの浮きや目地に隙間が無いか、接着剤など
の汚れが残っていないか確認してください

⑤仕上げと養生

- 壁ぎわ等に隙間がある場合は、コーキングします。
※隙間の周囲が汚れないように、マスキングテープで周囲をマスキングし、
コーキングしてください。

- 接着剤が完全硬化するまで 24 時間以上養生します。
※養生中は急激な温度変化がないようにしてください。床材カバー
が伸縮して、継ぎ目に突き上げや隙間が発生することがあります。

